

INFORMATION

- 2004.6.10(木) 2004年度総会・講演会・懇親会
- 2004.7.15(木) 第3回役員会・第9号オイクスノモス発行
- 2004.7.22(木) 第2回常任幹事会
- 2004.9.16(木) 第3回常任幹事会
- 2004.9.23(木) 第11回大学同窓祭・公開講座担当
- 2004.10.16(土) 第2回相模原キャンパスツアー
- 2004.秋(未定) 東都大学野球応援ツアー
- 2004.11.11(木) 第4回常任幹事会
- 2004.12.中旬までに 幹事会案内発送
- 2005.1.20(木) 幹事会・講演会
- 2005.2.15(火) 第10号オイクスノモス発行
- 2005.3.10(木) 第5回常任幹事会
- 2005.3.26(土) 卒業生に対する入会案内配布
- 2005.5.12(木) 第1回常任幹事会
- 2005.5.中旬までに 総会案内発送
- 2005.6.16(木) 2005年度総会・講演会・懇親会
- 2005.7.14(木) 第2回常任幹事会

2003(平成15)年度 収支報告書 自 2003年4月1日 至 2004年3月31日

(単位:円)

収入の部			
科目	予算額	決算額	増減
1. 会費収入	2,700,000	2,448,000	252,000
2. その他収入	190,000	68,006	121,994
1) 雑収入	190,000	68,000	122,000
2) 預金利息		6	6
当期収入合計	2,890,000	2,516,006	373,994

(単位:円)

支出の部			
科目	予算額	決算額	増減
1. 事業費	400,000	314,182	85,818
2. 会報発行費	500,000	366,270	133,730
3. 印刷費	500,000	571,420	71,420
4. 通信交通費	300,000	210,400	89,600
5. 会議費	200,000	146,930	53,070
6. 事務費	560,000	85,728	474,272
7. 名簿管理費	300,000	263,340	36,660
8. 雑費	100,000	28,484	71,516
当期支出合計	2,860,000	1,986,754	873,246
当期収支差額	30,000	529,252	499,252
前期繰越金	8,704,075	8,704,075	
次期繰越金	8,734,075	9,233,327	499,252

おしらせ

1. 第2回相模原キャンパスツアーを10月16日に行います。前回お見逃しの方は、この機会に是非いかがでしょうか。詳細は、事務局より後日ご連絡致しますので、お名前、ご住所、お電話番号等ご連絡先をFAX、またはE mailにて下記事務局までご連絡下さい。
2. また新しく、第1回硬式野球部・神宮球場応援ツアーを、秋季リーグの後半に実施致します。日程は現在調整中ですので、ご希望の方は同様にFAXまたはE mailにてお申し込み下さい。後日事務局よりご連絡致します。

申込み〆切9月30日

また、1,2のいずれか、または両方希望等をお知らせ下さい。

事務局：中栄印刷工業気付 磯部守孝
TEL:03-3451-7365 FAX:03-3452-8455
E mail: isobe@chuei-print.co.jp

AONサロン

「年金改革と公共選択論」

経済学部教授 中村まづる

2004年、年金法改正法案が成立しました。5年ごとに行なわれる年金制度の見直しは、通常ならばこれで一件着落のようですが、法案成立直後、改正のシナリオの前提を揺るがす少子化の進展が判明してしまいました。人口減少時代の到来、団塊の世代の引退など、当面の対策も具体化されていません。むしろ、先送りされた抜本的改革への第一歩をこれから踏み出さなければなりません。

ところで、公共選択論は一般には馴染みが少ないかもしれませんが、1970年代以降、イギリスのサッチャー政権やアメリカのレーガン政権に代表される「小さな政府」を志向する政策運営の理論的支柱として評価されています。高度経済成長時代が終わりを告げると、高福祉・高負担の政策路線が経済の活力を削ぐ要因として批判に晒されました。近代国家では、政策運営は民主的なルールに則って選ばれた政府に委ねられますが、公共選択論は経済学の分析手法を用いて、社会保障など国民の支持を得やすい政策が優先され、財政赤字が累積し、経済破綻に至る経緯を解明しました。その帰結として、政治的圧力を極力排した自動調整メカニズムを内蔵する制度改革を提言し、今では欧米先進国の政策運営の潮流となっています。

今回の年金改正は、保険料固定制とマクロ経済スライド制の導入により、将来の保険料負担と給付額の膨張に歯止めをかけたことが大きなポイントとされています。これは、日本の社会保障制度を充実していくうえで手本としてきたスウェーデンの年金改革を参考にしたものです。1990年代に財政破綻の危機に瀕したスウェーデンでは、政策変更による将来見通しの不透明さを回避し、制度の安定化を図る大胆な改革を断行し、本来これらはその一環でした。今回は先送りされた、積立金の資金運用、制度の一元化など、現行制度の根幹に関わる議論も、実は構造改革の課題として避けて通れない問題なのです。負担と給付の恣意的な数字合わせではなく、若者にも支持される年金制度の方向性を見極めるうえで、公共選択論の示唆を読み取っていただければ、年金制度のあるべき姿が浮かび上がってくることでしょう。

編集後記

沼尻 剛(H5)

前号で掲載された「若手役員大いに語る」では、経済学部同窓会奨学金について、学生支援の一環として提案がなされました。そして今回の会報では、その制度が学院との連携により具体化されるという報告がありました。これも会員の皆さまのおかげと感謝しております。また、学院のホームページにも掲載され、16ある各同窓会で1番初めにこの制度を利用することとなり、これが経済学部在学生の勉学の励みになればと思っています。

また、6月に行なわれた総会では国連大学の安井副学長に講演をいただき、「経済と環境」について見識を深めることができました。世界中を飛び回る忙しいスケジュールの中、プロジェクターを使っただけの講演で、より易しく理解できるように配慮していただき、大変素晴らしい方とめぐり合えた喜びでいっぱいでした。これらの気持ちを伝えるには、会報だけでは限界があります。今秋には相模原キャンパスツアーや大学野球(経済学部生が現野球部に多数在籍しています)応援ツアーなどを盛り上げる企画も考えていますので、皆さま、是非参加して同窓会を体感してください。

編集委員：飯村 肇(S35)西尾隆司(S37)清水美子(S39)石井信之(S41)磯部守孝(S53)中根紀弘(H4)沼尻 剛(H5)富田 直(H5)

青山学院大学経済学部同窓会会報 第9号

2004年7月15日発行

発行者 森 啓

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

(青山学院大学経済学部・石井信之研究室内)

〒150-8366東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111 (内線12817)

www.econ.aoyama.ac.jp/dousokai/toppage/index.html

皆様からの情報やご投稿、入会申込、会費納入等のお問合せは下記へ!

〒150-8691渋谷郵便局 私書箱145号

aogaku-kei.dosokai@jcom.home.ne.jp

AOYAMA OIKOS NOMOS



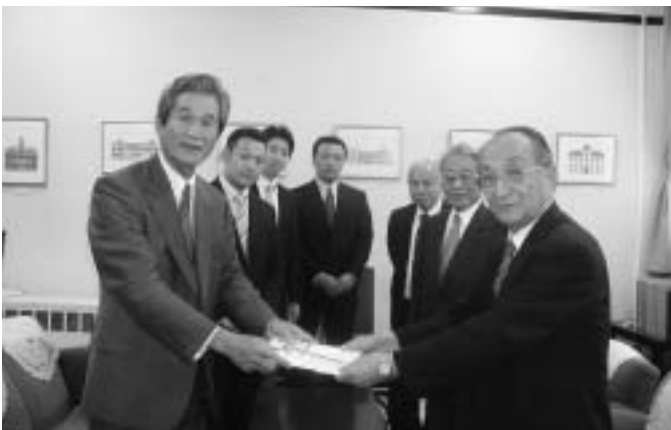
青山学院大学経済学部同窓会会報

2004. 7. 15 アオヤマオイコスノモス 第9号

6年目の「進展」と「課題」

経済学部同窓会奨学金の創設

副幹事長 沼尻 剛 (H5)



森会長より羽坂理事長へ目録が手渡される



理事長、院長、常務理事の方々と

去る6月10日、2004年度総会が開催されました。その議事の中、学生への支援活動の一環として経済学部同窓会による給付奨学金の創設が承認されました。この提案については、前号の記事「若手役員大いに語る」-「経済学部同窓会への提案」として掲載させていただき、アンケートにも多くの賛同を得ることができました。そこで、改めてこの制度についてお知らせしたいと思います。

同窓会設立当初より給付奨学金の必要性については、常任幹事会等で訴えてまいりました。なぜなら、若い卒業生は同窓会の存在すら知らないからです。そこで、在学時代に同窓会の存在を広く知らしめ、また年会費に対する説明責任の一端を担うものとして給付奨学金は最適なのではないかと考えました。しかし、万事良いと思われる給付奨学金も同窓会の活動として取り組むには財源と学院の協力体制という大きな課題がありました。

財源については、常任幹事会でも同窓会としていくら給付できるのか? 学生人数は? 金額は? 毎年か? と様々な質問が出され、さらに長く維持できる

のかということを多くの幹事が心配してくれました。今回の決定としては15万円×2名を最低3年間は続けるということで承認されました。これは昨年納入していただいた会費から一人500円弱を奨学金に充てたこととなります。よって、この奨学金は会員ひとり一人の年会費の賜物だと私は思っています。

学院の協力体制としては、昨年度より奨学金の募集を専門に扱う部署が設置されました。これにより、事務的作業や寄付による減税制度などの対応も窓口が統合され、すべてがスムーズに流れるようになりました。選考についても学生部の協力の下、大学が責任をもって優秀な人材を確保していただけようです。

今年度は学院とも相談し、秋に奨学金を出す予定であります。また来年度からは春に選考が出来るよう準備をしていきたいと考えています。会員の皆さんによる協力と理解がこの奨学金を支えていることを念頭におきながら、これからの実施をしっかりと確実に実行していきたいと思っております。

在学生に対する支援活動について

飯村 肇 (S35)

同窓会による在学生に対する給付奨学金は今回の「経済学部同窓会」が初めての試みであり対象学生数を今後一人でも多く増やしていきたいと希望している。

一方で2003年度における「一般会費、終身会費」の支払者は536名であり、終身会費既納入者約200名を加えても会費納入者は700名強に留まっている実態があり、しかも会費納入者は年々減少しているという現実がある。

同窓会会則にある「会員相互の親睦と研鑽を図ると共に、大学および経済学部の発展に寄与することを目的とする。」をさらに発展させ「在学生に対

する支援活動」に踏み込もうとする「動機および目的は善なり」とするものの、「経済学部同窓会」の存在価値を認め、活動を理解、支持し、会費を払っていただく経済学部卒業生の多寡が「在校生に対する支援活動」を継続し、さらに拡大していけるかのキーポイントとなる。

ぜひ、会員増強および会費支払者増強に各位のご協力をお願いしたい。また、そのためには「事業計画」の更なる充実が期待されていることも当然である。

2004年度幹事会・講演会報告

富田 直(H5)

2004年1月20日(火)18:00より 青学会館・ナルドの間において経済学部同窓会幹事会・講演会が開催されました。

幹事会では、昨年6月以降の活動とこれからの活動予定について報告されました。また、講演会では経済学部教授の中村まづる先生より「高齢化と公共政策」というテーマで講演をしていただきました。その中で、経済学部同窓会では新しい試みとして「保険・医療・福祉の連携化」と題し、中村ゼミナールの学生にプレゼンテーションをお願いし、質疑応答を行ないました。これが同じテーマに対して意見交換をした時、年齢の垣根がなくなるなど、多くの出席した幹事から好評をいただきました。



中村まづる教授とゼミ生

第6回2004年度年次総会・講演会・懇親会開催

富田 直(H5)

経済学部同窓会第6回年次総会が、2004年6月10日(木)18:00より、青学会館・サフランの間において開催された。

18:00より、幹事長による開会宣言・開会祈祷をもって総会が開会され、会長挨拶の後、会則に基づき会長が議長となり議案の審議に入った。すべて原案どおり滞りなく承認された。

19:00より、事務局長による司会で講師の安井至氏(国際連合大学副学長)の紹介が行われたが、先生のご尊父は元中等部長であり、ご自身もこのキャンパス内で生まれて初等部まで青山で育ち、東大大学院時代に高等部の講師を勤められたことをお聞きし、なんとも不思議なご縁を感じ、これを期に国際連合大学との交流が深まればと思われました。

引き続き20:00より、懇親会が開催され、来賓の武藤元昭大学長・堀場勇夫経済学部長よりご挨拶をいただき、大学ロイヤルサウンズジャズオーケストラの演奏により和やかな懇親会となった。



武藤大学長

続いて、企業の環境対応の諸段階に触れられたが、その内容は以下のとおりである。

- 段階1: 公害防止段階。現在では排出基準を守ること、すなわち法令の遵守はあたり前であり、もし守れなければ問題である。
- 段階2: 廃棄物削減段階。他の環境負荷の延長線上に廃棄物を位置づけること。ゼロエミッションが典型であり、ゼロを愛しすぎると環境負荷が増える。また商品のリサイクル対応表明もここに入る。この最終段階がリサイクルシステムの完成である。
- 段階3: 環境魔女対応段階。環境魔女として様々なものがあるがその代表例がダイオキシンである。この段階は環境天使対応も行われ、その代表は環境報告書への大豆インクの使用や生分解性プラスチックの無意味な採用である。植物物語などという商品もこの延長線上にあり、市民団体の石鹼も同じではないか。
- 段階4: 天然再生可能資源への負荷削減段階。特に森林に関わるような資源の削減を主張し、100%再生紙やケナフ紙も同一起源である。節水という概念もこのあたりで、この延長線上に自然保護対応があるが重要なので別項目で取り上げる。
- 段階5: 自然保護段階。自然保護活動への貢献を語る段階である。
- 段階6: 省エネルギー段階。自社の省エネルギー、製品の省エネルギーの主張である。二酸化炭素放出量、温暖化ガス放出量の削減もこの段階に入れるべきである。
- 段階7: LCAの段階。自社製品の環境優位性をLCAで表現する段階である。特に環境ラベルとしてLCAの結果を使う段階がこの段階の最終形であり、JAMEIのエコライフへの登録がその具体例である。
- 段階8: サプライチェーンマネジメント段階。欧州の有害物質規制によって出現した段階である。これはすべての企業が対応しなければならない訳ではないが、規制物質が含まれていないことをいかに管理するかが大切である。
- 段階9: 環境効率指標段階。様々な環境効率指標を設定しそれに向けた努力を表示すること。特に効率指標とは分子、分母に適切な項目を選択することによって、環境効率を定義するものである。
- 段階10: 拡大製造者責任実現段階。すべての自社製品を自主回収する段階である。ただし、法律的に規制されていないものの回収であり、またここまで行った企業はない。
- 段階11: 脱物質・脱エネルギー段階。環境指標を推し進めてサービス提供に特化する段階である。サービス化段階とも言える。

以上の11段階を挙げられた。特に拡大製造者責任の完全実施は難しく、段階11のサービス化も完全なものが見かけ上のものがある。この成功例として、松下電器の「あかり安心サービス」は蛍光灯の販売ではなく照明をサービスするものとなったが、このサービスを採用した企業が2年間で160社に達したという。しかし、この事業化にあたって内部では相当な批判があった。その理由は拡大製造者責任が一般的になってしまうと、経営上の困難が増加するからとのことである。また高知県梶原村などの実例を上げ、もう一つの狙いは地方の活性化であるとの説明があった。

安井氏は、再生可能エネルギーの活用による持続可能な社会の形成が鍵になりそうに思えるとし、次のように結んだ。環境問題は、人間活動と地球の限界との相互作用を理解することがその本質である。すでに人間活動は地球の能力を超え始めている。そろそろ、人間活動の中身を再考する時代になったように思えるが、もっとも軟着陸は無い可能性が高く、ギリギリまで現在の飛行高度を保つ以外に方法が無いのかもしれないとのことであった。

講師紹介 安井 至 氏

国際連合大学 副学長
元東京大学生産技術研究所 教授
元東京大学国際・産学共同研究センター長
東京大学 客員教授
1945年 東京生れ
1968年3月 東京大学工学部合成化学科卒業
1973年 大学院修了工学博士



—講演会要旨—

「経済と環境の好循環 ~その真相と対応~」 講師: 安井 至氏
環境研究分野で活躍されている元東京大学教授、現在国際連合大学副学長である安井至氏をお招きし、「経済と環境の好循環 ~その真相と対応~」と題する講演をしていただいた。

今年の5月に環境省から「環境と経済の好循環ビジョン」というものが発表された(http://www.env.go.jp/policy/env_econo/)。安井氏は、当初からこの委員会に参加して議論に加わってきたが、日本の行政の現状を考えれば報告書としてはまずまずのものが出来たと思うものの、対企業活動に関してはもっと辛口の切り口も有り得たように思うとのことであった。

これまでの状況として、環境と経済の好循環というものはある種の理想形であり、これまで環境は経済の足を引っ張ると思われてきた。資本市場などの一部にはまだまだそのような考え方があるとみている。また、エコファンドなどに組み込まれている企業が、どのような手順で評価されているのかというのを考えてみると、環境影響を最小化しようとする努力が評価のための第一条件では決して無い。まず健全な経営体質をもっていることが最大のポイントである。しかし、一つの評価にはなりつつあり、少なくとも重要企業の環境経営方針なるものがしっかりしていることが最大のポイントである。(ソニー、松下電器などの実例を紹介)

第11回同窓祭公開講座予告編

石井 信之 (S41) 経済学部教授

昨年の総論的なアメリカ西部劇映画論の続篇として、今年は各論的な西部劇映画ベスト・テンのお話をしたいと思います。その場合、小生も含めて第二次世界大戦後の映画全盛時代(1946~1960年頃)を経験した世代に共通の西部劇映画体験を踏まえた一般的なベスト・テンについて先ずお話ししたいと思います。戦後の世相の、荒廃してはいたが何か未来に希望を皆が抱いていた時代(即ち、高度経済成長以前)に多くの口マンを与えてくれたアメリカ映画を代表するジャンルとしての西部劇映画を念頭において、作品、監督、主役、音楽についてのベスト・テンを選びたいと思います。作品としては、「荒野の決闘」、「シエーン」、「真昼の決闘」、「駅馬車」などが真っ先にあがるでしょう。又、監督としては、ジョン・フォード、ハワード・ホークス、ラオール・ウォルシュ、ジョン・スタージェスなどが筆頭にくるでしょう。主役におけるジョン・ウェイン、ゲイリー・クーパー、ヘンリー・フォンダ、ジェームズ・ステュワート、リチャード・ウィドマーク、ランドルフ・スコット、ジョエル・マックリーの7人も不動でしょう。西部劇映画の主題歌作曲家といえば、先ず、デズリリー・ティオムキンが筆頭でしょう。「真昼の決闘」、「OK牧場の決斗」、「アラモ(グリーン・リーヴス・オヴ・サマー)」、「リオ・ブラボー(ライフルと愛馬)」など曲名を聞いただけで勇壮で物哀しげなメロディーが浮かんでくるでしょう。「ヴィクター・ヤング」も「シエーン(遙かなる山の呼び声)」と「大砂塵(ジョニー・ギター)」の2曲で不朽の名をとどめているでしょう。以上のような日本の戦中・戦後世代にとつての懐かししの西部劇映画ジャンル内ベスト・テンとともに、小生自身が考えているちょっと硬い社会的・経済的・思想的な立場からのベスト・テンについても以上と並行してお話してみたいと思います。

新企画・この選手にクローズアップ!

磯部 守孝 (S53)

体育会に所属する経済学部生の選手にインタビューするこの企画の第1回は、硬式野球部で前回の春季リーグで見事に首位打者に輝きました、中尾敏浩君(4年・副主将・178×76・センター)にお話を聞いて参りました。

磯部: 高校はPLでしたが何故青学を選んだのですか?

中尾: 「中学まで福岡で、その頃から小久保、井口選手がダイエーに入ってきて憧れていたの、自分も将来は絶対に青学へ行きたいとその頃から心に決めていました」

磯部: 昨年秋のリーグで優勝しましたが、中尾君が首位打者だった春では5位と低迷してしまいましたね。

中尾: 「昨年秋は9期ぶりの優勝でした。それまで3回くらい優勝争いをして敗れていて、自分は高校で甲子園を春夏計2回経験していますが優勝は出来ず、神宮でもその二文字には縁が無いかなあ...とあの時も少し諦めていたのですが、優勝できて本当に嬉しかったです。ただ、春は絶対に負けるはずが無いという自信が空回りして、気がついたらあの結果でした。その悔しさをバネに秋は絶対にその屈辱を晴らすつもりでみんな燃えています」

磯部: チームの雰囲気はどうですか?

中尾: 「とても和気あいあいである、上下関係も良く先輩からのイジメやシゴキみたいなことは一切ありません。河原井監督も選手の自主性をとても重んじる近代的な指導方法ですが、与えられる練習ではない半面、逆に自己管理が重要なので、それができないととても大変です」

磯部: この専用グラウンドは素晴らしいですね



中尾敏浩選手

中尾: 「ハイ、これだけの設備を持ったチームは他の大学には無いと思います」

磯部: 目標としている選手は誰ですか?

中尾: 「大学の先輩を含めて沢山いるのですが、個人的には走攻守揃ったPL出身の松井稼頭央選手が目標です」

磯部: 将来の夢は?

中尾: 「できれば社会人野球を経験してプロでもやってみたいです」

磯部: 読者のみなさんに最後に一言メッセージを

中尾: 「秋は絶対に優勝目指して頑張りますので、是非神宮へ来て応援をお願いいたします!」

磯部: 非常に礼儀正しく明るく爽やかな中尾君、試験前の忙しい時間に有難うございました!

(付記: 秋季リーグ応援ツアーを企画しております)

経済学部同窓会アンケート集計報告

中根 紀弘 (H4) アンケート実行委員会

- 同窓会活動を活性化させるために -

2003年6月にスタートした新執行部は同窓会活動の更なる活性化を図るため「会員アンケート」を実施し会員の同窓会に対する期待と希望を把握し2004年度以降の事業計画に反映させることにしました。アンケート内容については役員会で議論を重ね2004年2月に登録会員1,660名に送付しました。回答会員数は140名、回答率は8.43%でした。

1. 同窓会に期待すること(複数回答可)

「親睦」が110名(79%)で圧倒的に多く「自己研鑽」が55名(39%)、「ノスタルジー」が52名(37%)と上位3位を占めました。次いで「ビジネスチャンス」「ボランティア活動」となっています。予想通りの結果となりました。

2. 年会費および支払方法

現状どおりで良いが117名(84%)を占めました。但し、年会費納入者は年々減少を続けており、その対策も含め今後の検討課題であると認識しております。

3. 会報「オikosノモス8号」の中で面白かった記事

一面に掲載した「若手役員大いに語る」の座談会が好評で20名(14%)とダントツ1位でした。「AONサロン」大学同窓祭協賛「石井教授の公開講座」各8名(6%)続いて「小峰あずさんのコンサート」「相模原キャンパスツアー報告」でした。

4. 広告掲載掲載の賛否と広告主になる意思の有無

広告掲載については96名(69%)で三分の二以上の賛成をいただきましたが、自ら広告主になる意思をお持ちの方は14名(10%)で広告掲載賛成者も含めて125名(89%)が自らは広告主にはなれないとの意思表示をされました。広告掲載については発行部数の問題もあり難問であります。

経済学部同窓会ホームページ

観たことのある方は27名(19%)と予想以上に少なくPR不足を実感しました。現在は「学院」のホームページ又「校友会」のホームページからもリンクして入れるようになっています。ぜひ、一度ご覧下さい。これからもホームページの充実を図り会員に対する「コミュニケーション・ツール」として活用していきたいと考えています。

興味のある企画(複数回答可)

「公開講座(身近な経済学など)」が79名(56%)が第1位となり第3位の「公開教室(英会話、パソコンなど)」32名(23%)と共に同窓会との関わりとして「親睦」は当然として「自己研鑽」の場として捉えていただいていることが良く判りました。第2位には「相模原キャンパスツアー」が38名(27%)でした。本年も「相模原キャンパスツアー第2弾」の実施を予定しています。新しい見学内容も加えました。ご期待の上、ご参加下さい。第4位は「ホームページの充実」31名(22%)です。因みに第5位は「就職情報の提供(セミナーなど)」28名(20%)でした。アンケートの結果を参考に同窓会の活性化施策を実施していきます。

今後とも宜しくご協力をお願いいたします。